

第6分科会

問題提起園 くしきの森のこども園

発達の連続性を踏まえた幼児教育 問題提起者 若竹 明音

～こども園の自然を生かした遊びとノーメディアデーの取り組みについて～

【研究課題】

教育・保育理論

【研究・研修の視点】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂では、特に0・1・2歳の保育で「受容」や「共感」「応答」の大切さが強調されている。乳幼児期は、子どもと身近な大人との間に安心と信頼関係、いわゆる愛着の形成を促すことが重要であるが、最近の子育てを取り巻く状況については、様々な課題が指摘されている。特に親が子どもの前でスマホや他のことに気を取られてしまうことは、アイコンタクトや話しかけ・応答の減少、愛着が育たない、言語発達の遅れなど乳幼児期の発達に悪い影響を与え、現代社会における大きな問題となっている。

そこで開園当初より、取り入れているノーメディアデーの取り組みをもとに、メディアと子どもの発達について考えてみることにした。

家庭ではノーメディアデーを通して家族団らんの時間を作り、子どもとしっかり向き合い、話を聞いてあげることが心掛けてもらい、こども園では「早寝・早起き・朝ごはん」をキャッチフレーズに朝元気に登園し、こども園での自然を生かし、元気いっぱい自然の中で過ごさせたいと考える。

【主な研究・研修の内容と計画】

- ◇ 全クラスでノーメディアデーに取り組んでいるが、3・4・5歳児に重点をおき、研究を行う。
- ◇ 発達の連続性を考慮したうえで、教育・保育の在り方・子どもの生活や育ちについて考える。
- ◇ 子どもにふさわしい生活リズムを獲得するために、家庭と連携し、子どものメディアに接する時間を振り返り、今一度生活リズムを見直す。
- ◇ ノーメディアデーの取り組みを通し、子どもの遊びを振り返り、遊びを豊かにできるよう考える。
- ◇ 園は森の中にあり、周囲の豊かな自然を利用して、五感を育てる遊びの工夫に努める。

【研究の概要】

1 研究・研修テーマの捉え方

- ・ 幼児期の教育は、遊びを中心としながら、生涯にわたる人格形成の基礎を培うものであるため、この研究を通して、子どもが主体的・積極的な活動ができるよう、メディアに頼らず遊ぶためには、どのような環境が必要なのか年齢に応じた遊びを考えていきたい。

また、五感からの刺激によってシナプスが増え、脳が発達することから、自然や周囲の環境の中で子どもたちが自ら遊びを考え、楽しんでいけるようにしていきたい。

2 研究の内容

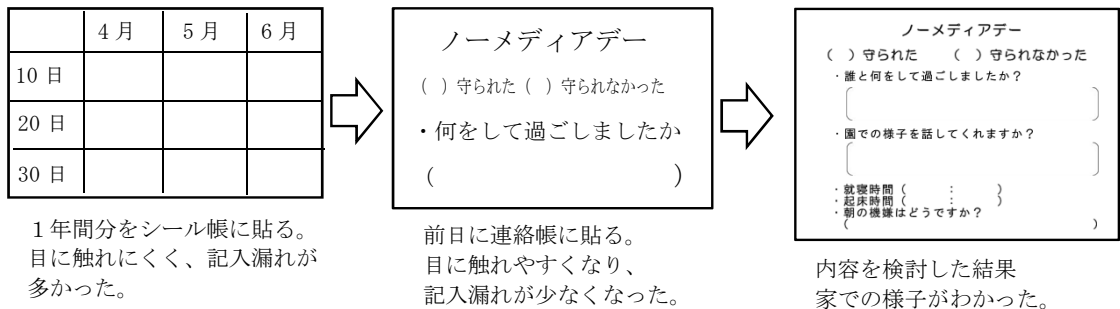
- ・ 開園当初から行っているノーメディアデーの取り組みが深く浸透するよう、保護者・子どもたちへの周知の仕方を考える。
- ・ アンケートを行い、結果を周知し、保護者、子どものノーメディアデーの取り組みへの意識を高める。
- ・ 自然に触れて生活することの意味は大きいことから、全身で自然を感じ取れるよう「見て、聞いて、触れて、嗅いで、食べて」の五感が育つような遊びを提供する。(園内の自然環境を整備)
- ・ こども園の自然豊かな環境は、脳の発達にどのような影響を及ぼすか考える。

3 実践例

- ・ 全体的な取り組み

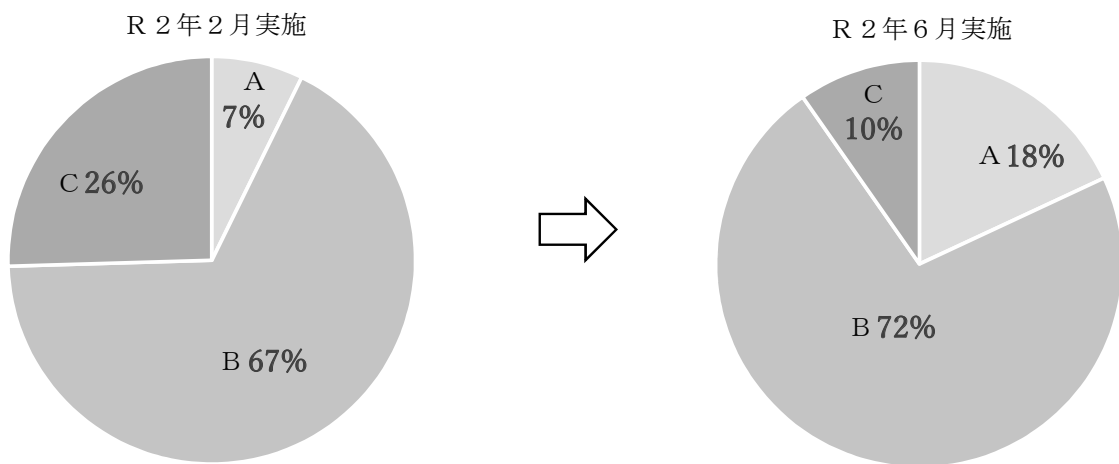
① 保護者と子どもへのノーメディアデーの周知

(チェック表の改善)



結果：回答率が上がり、意識が高まった。

(ノーメディアデーの実施アンケート)



毎月 10日 20日 30日のノーメディアデーが

A：守られている B：1～2回守られている C：守られていない

結果：90%ほどは、守られる子が出てきている。

(睡眠時間調査)

- ・ 脳の成長には、睡眠時間が大きく関係することから、ノーメディアデーの日と、それ以外の日で、睡眠時間の調査を行った。

〈ノーメディアデーとそれ以外の日の睡眠時間の比較〉

	ノーメディアデー	ノーメディアデー以外
3歳以上児	9.6時間	9.4時間
3歳未満児	9.5時間	9.3時間

- 園での昼寝の時間まで含め、10時間から11時間程度睡眠時間をとれている。
- ノーメディアデーを意識することで、就寝時間が早まり、睡眠時間が増えている。

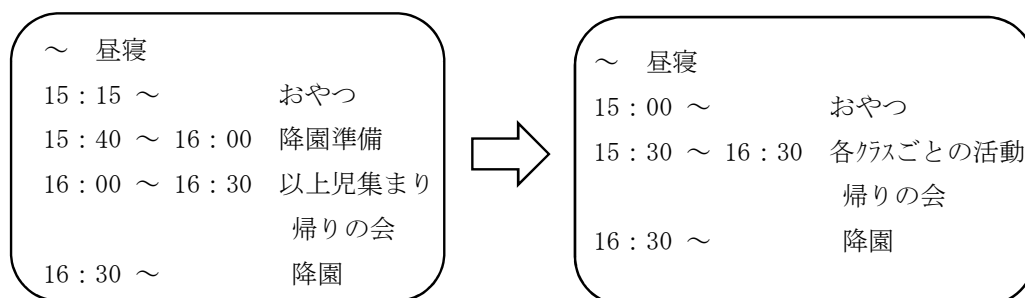
☆ 乳幼児期の脳は、寝ている時間に発達することから「睡眠が大切」。

子どもにとって睡眠は「脳を創り、育て、守る」大事な時間です。3歳までに脳の神経細胞の基礎ができ上がると言われており、その期間にスマホやゲームによる人工光線や刺激的な画像を見せると脳の発達に悪影響を与えます。寝つきが悪く、寝起きにぐずるようになり、イライラして痛癢をおこしやすくなります。また、十分な睡眠をとっている子どもでは、記憶を司る脳の海馬が大きいことも分かっています。

脳の発達の視点から乳幼児期の睡眠は非常に大事なのです。 (助言の先生より)

(園での生活リズムの見直し)

午後からの活動



朝の会などで、0のつく日に何をしてお過ごしたか遊んだかを聞き、子どもたちへ意識付けしていく。

- 3・4歳児 … 簡単なきまりがわかる。(ノーメディアデーの日がわかる。)
〈例〉 K男 … 父親がテレビをみていると「今日はノーメディアデー、0のつく日だよ」と言ってK男がテレビを消した。
〈例〉 T子 … テレビをみていたが、ノーメディアデーと気づき、テレビを消した。
- 5歳児 … 目的に向かって自ら考え、行動しようとする。
〈例〉 M子 … 起床してすぐ、ノーメディアデーと気づき、園から帰ってからの遊びを考えていた。家族みんなで遊べる遊びを考え、楽しみにしている。

結果：朝の会等で話をする中で、子どもたちから〈例〉のような言葉も出るようになった。子どもたち自身の意識も変わってきていて、自ら進んで守ろうとする意識が伝わる。

② こども園の自然の中で五感を育てる。

- ・ 自然の中で遊ぶことにより、園児は全身で自然を感じ取る体験をして、心が癒されると共に多くのことを学んでいる。

園生活の中で、できるだけ身近な自然に触れる機会を多くし、園児なりにその大きさ、美しさ、不思議さなどを全身で感じ取る体験をもつことが大切である。

保育教諭は、園内外の自然の状況を把握して積極的に取り入れるなど、園児の体験を豊かにする環境を作り出し、園児が好奇心や探求心をもって見たり、触れたりする姿を見守ることが大切である。

◆園での自然

	春(4～6月)	夏(7～9月)	秋(10月～12月)	冬(1月～3月)
生き物	・ モシトヨウ ・ モシトヨウ ・ てんとう虫 ・ タノコ虫 ・ ミズメ ・ おたまじゃくし ・ カエル ・ モグラ ・ 竹うぐいす ・ ほととぎす	・ バッタ ・ かぶと虫 ・ くわがた虫	・ コロギ ・ とんぼ	
環境	・ 草刈 ・ 森探検 ・ もみじの新芽	・ 草刈 ・ 森探検	・ 草刈 ・ 森探検 ・ もみじ(紅葉)	・ 霜が降りる ・ 氷、雪だるま作り ・ ゲレンゲができる ・ 草刈 ・ 森探検
収穫物	・ 野いちご ・ いちご ・ 梅 ・ お茶 ・ 玉ねぎ ・ そら豆 ・ あけび ・ ジャガ芋 ・ 古参竹 ・ さくらんぼ ☆梅干し作り	・ すいか ・ ぶどう ・ 夏野菜 *キュウリ *トマト *ピーマン *オクラ *とうもろこし	・ みかん ・ しいたけ ・ 栗 ・ もみじ ・ さつま芋 ・ どんぐり ☆焼き芋	・ きんかん ・ ポンカン ・ レモン

- ・ 自然の中にいるヘビ、ムカデなど、危険な生き物もその都度伝える中で、わかるようになってきた。

竹の子



梅



そうめん流し



◆ 山探検

山の中を散歩：年2回程



保育教諭・職員で山の中を整備し、年中児・年長児は1週間に1度山の中に入り、木に登ったりかずらを利用し、ぶら下がったりと、それぞれに山の中での遊びを見つけ、遊ぶようになる。

☆ 年長児

1人の男の子がかずらを見つけ登り出すと、次から次へと他の子たちも登り始めた。



かずらにぶら下がって遊ぶ →



☆ 年中児



←大きな葉っぱを頭にのせて、森のくまさんになった気分

かずらにぶら下がって遊ぶ→



年齢に応じた遊びが見えてくる

☆ 年小児

バッタみつけに夢中



4 まとめ

開園当初から取り組んできたノーメディアデーについて研究をすることにより、保育教諭もノーメディアデーの大切さを再確認した。子どもたちや保護者への周知の浸透に努め、90%の子どもたちが守ろうと意識するようになった。

助言の先生より、メディアが脳に与える弊害が大きいこと、乳幼児期は寝ている間に「脳を作り・育て・守る」ことから睡眠の大切さを学び、ノーメディアデーを続けることの大切さを共に再認識できた。

園は森の中にあり、この自然豊かな環境を園児の教育資源として有効に使いメディアから離れ、自然での活動に重点をおいた。保育教諭・職員は子どもたちが自然体験を十分に得られるようにするために、山を整備した。山探検をし、かずらを利用し、登ってみたり、ぶら下がってみたり、木いちごを見つかったり、大きな葉を頭にのせ傘にしたりした。このような体験を通して子どもの五感が発達し、ひいては脳の発達にいい影響を与えるものとする。TVやビデオなどメディアを通しての間接体験が増えてきている現代、全身で自然を感じるとの体験ができていないかと思う。

5 今後の課題

- ・ 年齢を重ねるごとに自分で考え、自分で行動する力が養われていく中で、ノーメディアデーを低年齢の時期から定期的に取り組むことで、メディアに対しても自分で選択する力を付けるようにしていきたい。
- ・ こども園での自然あふれる環境をフルに生かして遊びを中心に子どもたちの自ら考える力を引き出せるよう保育教諭が遊びを提供し、子どもたちが遊びを工夫していけるようにして

いきたい。

- 人間は、自然の一部であるということを自然体験を通して気付く子どもが一人でも増えるよう、今後も取り入れていきたい。

指導助言：増田彰則先生(増田クリニック)

